

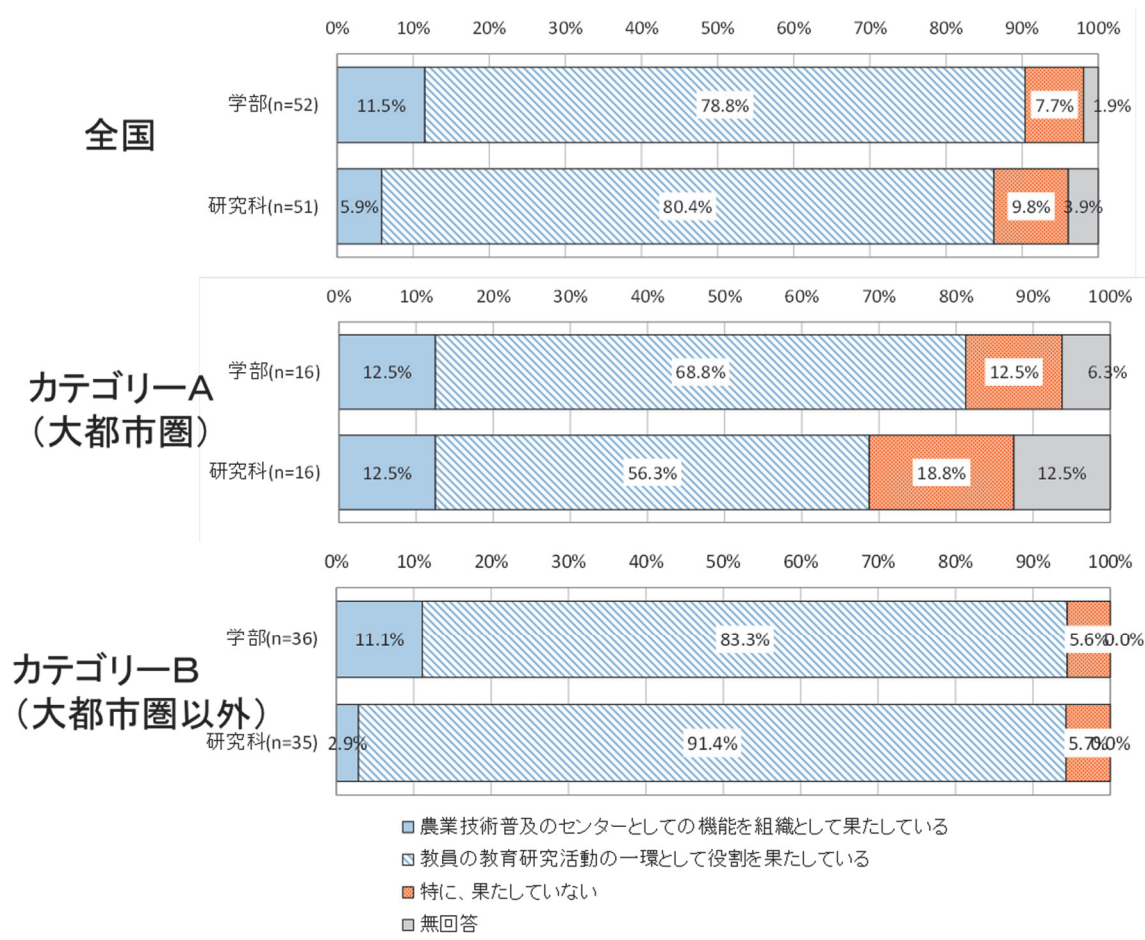
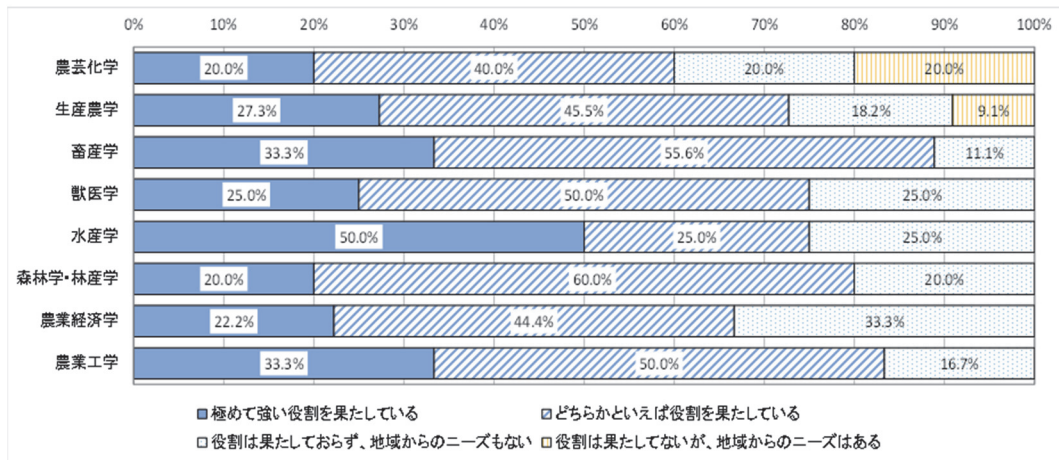


図 4-56 農業技術普及に果たす役割

カテゴリーA(大都市圏)



カテゴリーB(大都市圏以外)

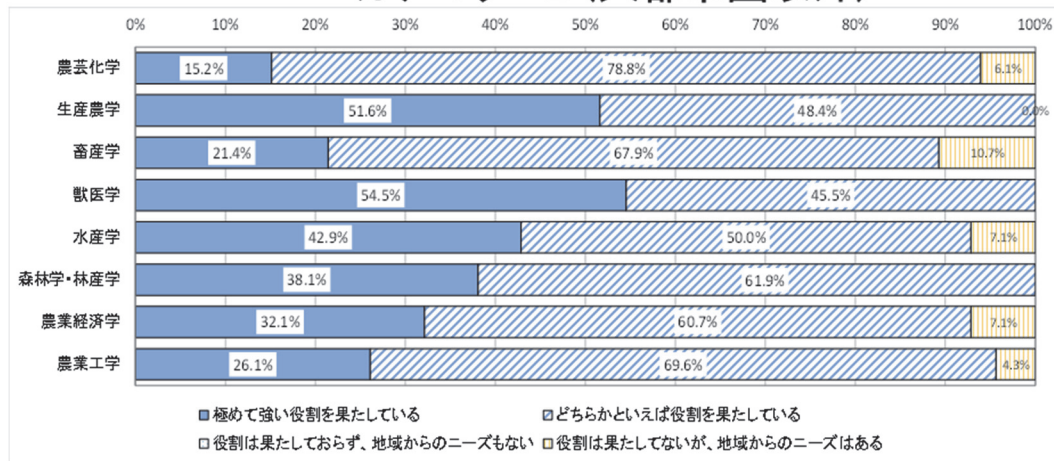


図 54 7 専門分野毎の農業技術普及における役割

(4) 就職の動向

農業関連、食品関連企業、公務員などは依然として農学系の伝統的な就職先であり、それらの割合は高い。一方、20～30年前にはほとんどなかった、新たな就職先が認められる。特に、新規就農、農業法人への就職は新たな動きであり、全国的に今後増加すると考えられる。また、NPO や NGO への就職も就職先として一定の割合を占めるものと考えられる。我が国の農学系高等教育機関の発足当時は、農業者のリーダー育成も主要なミッションとされていたが、高度経済成長期以降その役割は求められてこなかった。新規就農、農業法人への就職が近年増加傾向にあることは、新たなミッションとして復活してきたと積極的に理解できよう。

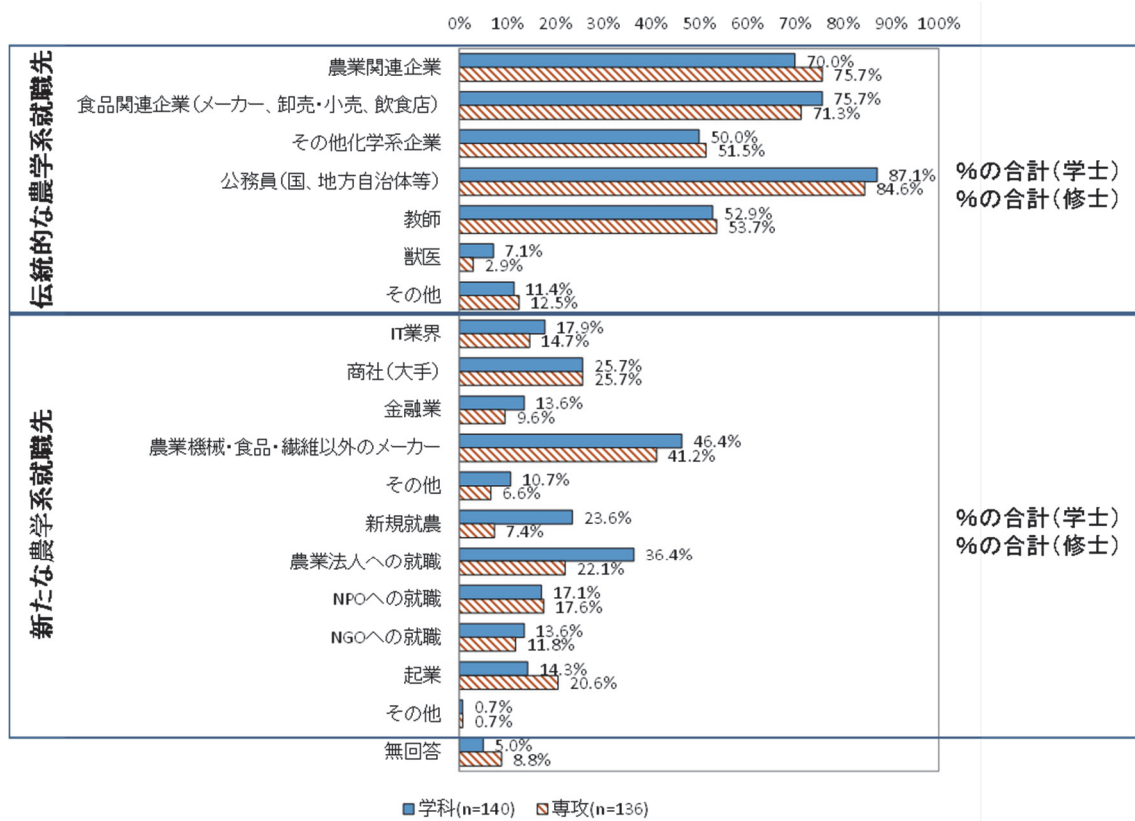


図 4-57 農学系の就職の動向

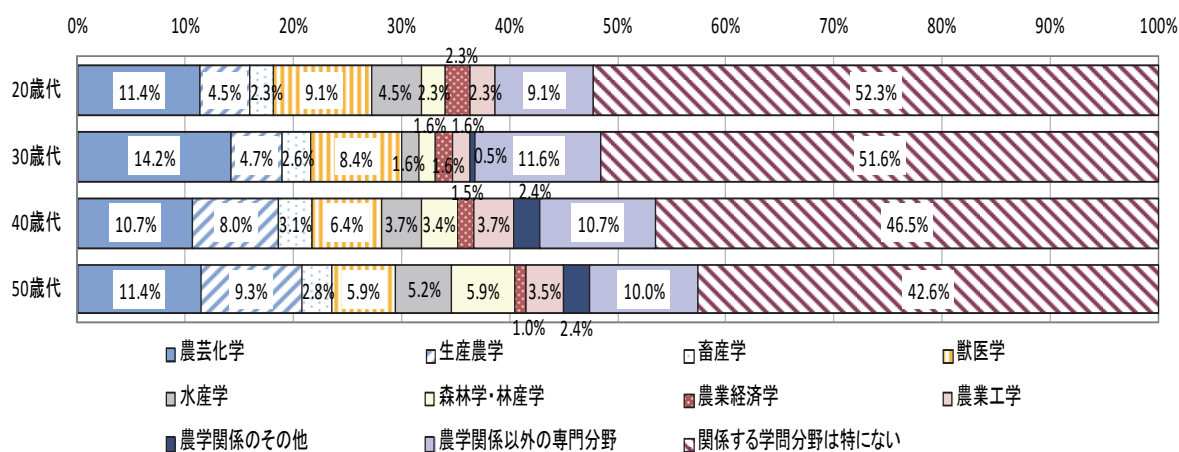


図 4-58 農学系 7 分野における出身者の年齢構成

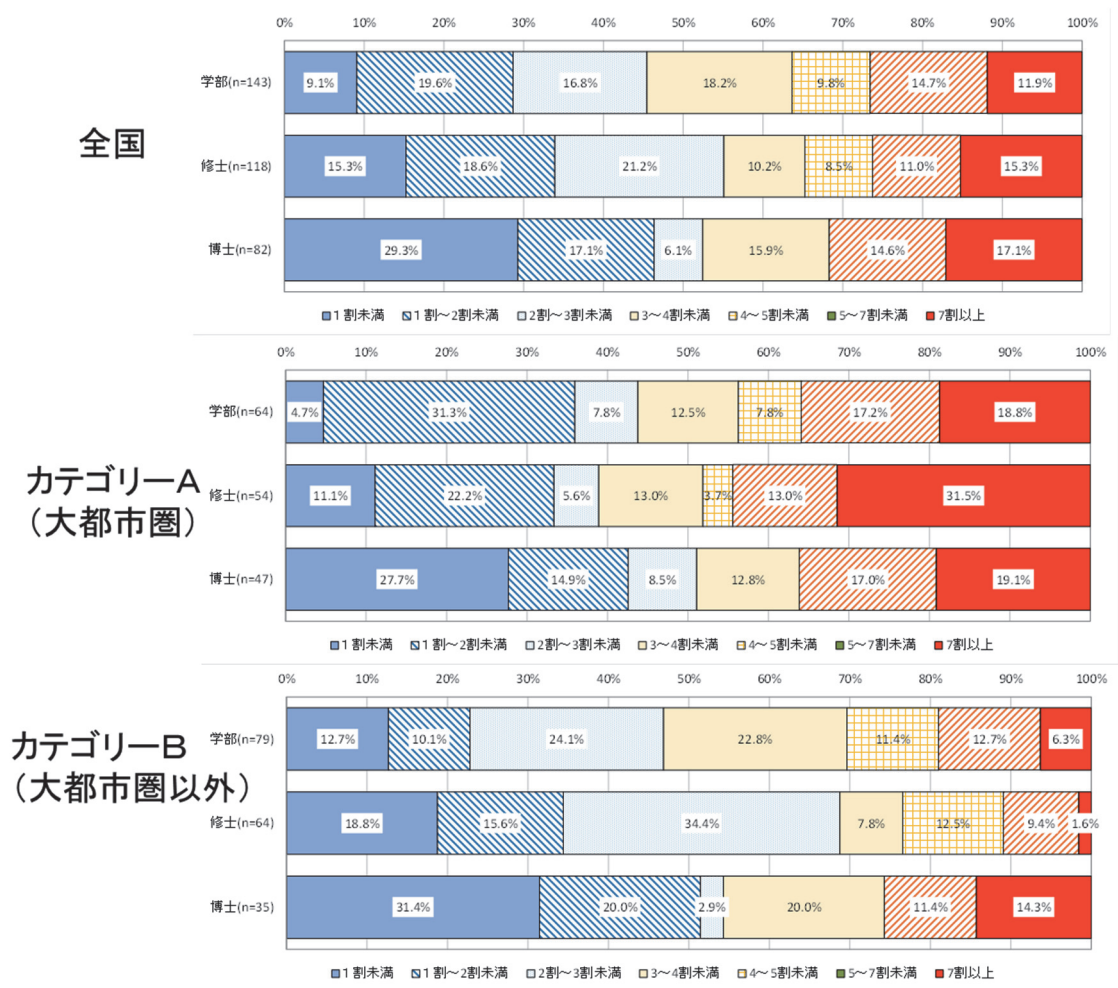


図 4-59 出身大学と同じ都道府県に就職する割合